


貫井 信之 代表取締役

DATA

- 本社 〒379-2233 群馬県伊勢崎市平井町1354-1 TEL 0270-63-1166(代) FAX 0270-63-1165 URL: <http://www.gokou-s.com/>
- 資本金 2,100万円
- 従業員 32名
- 事業所規模 敷地 8,636m² 工場 2,250m²
- 車体工業会加入 2005年(特装部会)

GOKO.S


(株)互幸産業

環境意識の高まりとともに 廃棄物用コンテナ需要の潮流をつかむ

(株)互幸産業は、冬は赤城おろしと呼ばれる冷たい強風が吹く群馬県伊勢崎市で創業し、不況時の逆風にも負けることなく、廃棄物用コンテナ需要をしっかりとつかんで着実に業績を上げてきた会社である。

取材／車体工業会事務局次長 杉崎 満

●特徴・沿革

1994年、大型空調設備の部品製造会社として創業。まだバブルの名残りもある頃、文化会館、庁舎、寮、大학교、病院等の施設が多く建築され、そこに設置する大型空調設備は安定した需要があった。しかし、その後の不況で受注台数が急激に減少し、経営を圧迫した。そのような中で、知人から廃棄物コンテナの製造を依頼され、1996年に廃棄物用コンテナの製作を始めた。

当時は、現在ほど普及していないかった廃棄物用のコンテナであったが、近い将来、多種多様の廃棄物の分別が必要な時代が来ることを予感した貫井社長は、得意とする鉄工技術を活かして、様々な分別方式に対応して、オリジナルの脱着式コンテナや分別ボックスを提案し、多くのユーザーを獲得することに成功した。

1997年のダイオキシン問題の発生や、容器包装リサイクル法等が施行されるなど、環境意識が急速に高

まり、ゴミや廃棄物に日本中が高い関心を持ちはじめたことで、廃棄物用コンテナの需要も増大した。貫井社長の読みは的中し、現在では製造を始めた当初に比べて、およそ10倍の生産量に伸びている。

廃棄物用コンテナは、固い金属片やガレキが投入されたり、廃液が付着するなどのほか、重機で突かれたり、野ざらしで放置されたりと、もっとも過酷な環境に晒されている架装物の一つであるといえる。

(株)互幸産業では、リサイクルをとても大切にし、コンテナの修理も積極的に行っている。スタッフの技術力の向上にもつながり、低コストで製品の寿命を伸ばすことができるので、ユーザーにも喜ばれている。

近くを走る北関東自動車道によつて、交通の利便性も整い、貫井社長をリーダーに、販売及び修理において、スピーディーなフットワークで伸び続けている企業である。

●製品

- 御社の業務の特徴について
お聞かせください。

弊社では、鉄板素材が製品になるまでの工程をすべて社内で一貫して行っています。鉄板の切断には2台のシャーリング、長材は全自動バンドソー、曲げ加工では4mベンダー、溶接は熟練工と溶接ロボットによる溶接、塗装工程はウレタン塗装、そして仕上げ工程を経て、出荷しています。

各工程ごとに熟練技師たちが経験を活かし製造に励み、各工程ごとに検品を経て、次工程へと移行しています。最終検品の後、工場にてユーザー様にお引渡しか、大型クレーン付車にてお届けしています。



工場横の事務所と納品用トラック



工場等に置かれる
分別ボックスの需要も多い



- どのような製品を手がけて
いるのでしょうか?

主要製品として、脱着コンテナを製造しています。小さな部品の1つから、分別ボックス、2t、4t、10t、25t車用脱着コンテナ、平ボデー搭載用コンテナ、回送用コンテナ、トレーラ用コンテナ等々、様々な注文に合わせた製作を行っています。

脱着コンテナをはじめ、分別ボックスなどの設備品やトレーラボックスの注文には、培ってきた技術と蓄積したノウハウを最大限に生かし、商品の大小にかかわらず、お客様のご要望にお応えできる良品良質の製品のご提供を心がけています。

修理にも力を入れています。テールゲートやリヤローラの交換や動きをスムーズに戻したり、リフトバー、フレーム、固縛爪、ドレン口、ロープフック等の細かい部品の交換や床板



スタンダードサイズの
脱着コンテナ

等の張り替えも行い、直せるところは交換ではなく、修理で対応して、お客様にとって、もっともメリットのある作業で対応しています。

●御社の経営方針は?

公道を走る架装物ですので、安全を第一にしています。また、安心できる製品作りのために、人と人とのつながりを大切にし、今日より明日、明日より明後日の進歩と成長が、社会貢献にも役立つと考えています。



「きれいな職場は仕事が進む」整然とした工場内



幅広い年齢層のスタッフが働いている

●人

- 御社の特徴は?

20代前半から30代、40代、50代、60代と年代に片寄りなく、バランスのよい年齢構成となっております。心強く、頼もしい熟練職人に恵まれており、若い世代と熟練世代が融合しているところが特徴です。

- 次世代の教育は?

技術の継承は仕事を通して行われています。分担業務が中心となります、製品全体のイメージを捉えることができるよう、一通りのことを学んでもらうようにしております。若い世代の固定観念にとらわれない新しい発想を大切にしています。